



アウディ環境財団：住みやすい未来のために協力する

[アウディ環境財団](#)は、持続可能な活動を行うための新しい道を切り開いています。アウディ環境財団ディレクターのリュディガー レクナゲルは、次のように述べています。「私たちは、アウディのDNAを環境保護の分野に取り入れています。」この活動には Greenovation (グリーンノベーション) と呼ばれるプロジェクトの支援が含まれています。これは革新的なテクノロジーを採用して、天然資源の責任ある使用を促進するものです。

アウディ環境財団の目標は、人々の環境および気候保護に対する情熱を刺激し、その活動にどのように参加するかについて、具体的なアイデアを提供することです。財団はあらゆる年齢の人々を対象に、知識を深め、住みやすい未来に向けて社会貢献することを目指しています。その取り組みは、小さな活動から始まります。例えばプロギングイベント。プロギングとは、ジョギングをしながら路上のごみを拾い集め、適切に廃棄することです。

アウディ環境財団は、社会とのつながりと環境保護を強化することを目的として、2009年12月1日に非営利のAUDI AG完全子会社として設立されました。

3つの活動分野

財団の活動は長期的かつ多方面にわたります。アウディ環境財団は、支援するすべてのプロジェクトにおいて、自然と環境、そして持続可能な人間環境エコシステム（生態系）への貢献に焦点を当てています。そのすべては、クローズドループの考え方を中心に据えており、以下の3つの分野で活動しています。

[GREENOVATION](#)

これまでの環境保護を革新的なテクノロジーと結び付け、得られた結果と考察をオープンソースとして公開することにより、社会に価値ある貢献をします。

[ENTHUSIASM](#)

さまざまなプロジェクトやフォーマット（形式）を通じて、環境保護に対する情熱を持つ人々を励まし、活動に参加するモチベーションを高めます。

[RESPONSIBILITY](#)

社会と環境に還元することを目的としたプロジェクトとして、社会的および生態学的責任に焦点を当てています。

世界およびアウディ拠点でのプロジェクト

オークフォレスト研究プロジェクト

責任の範囲には個人も含まれます。そのためアウディは2008年以来、[アウディの各拠点](#)に約10万本のヨーロッパナラを植えています。この植樹は、特にヨーロッパナラの密度、CO₂吸収量、および種の多様性間の相互作用を調査する国際的な研究プロジェクトの一環として行われています。2022年には、サンホセチアパ（メキシコ）のアウディ生産拠点に直接隣接する土地に、ヨーロッパナラが植えられます。

マイクロプラスチックを除去するアーバンフィルター

アウディ環境財団は、ベルリン工科大学をはじめほかの協力機関とともに、2020年9月から都市の下水道用のスマートフィルターを開発してきました。アーバンフィルターと呼ばれるこのフィルターは、私たちの都市の廃水を通して、環境を汚染する原因となっている、マイクロプラスチックの量を削減することを目的としています。フィルターシステムはモジュラー設計を採用し、インテリジェン



トネットワークの概念を活用しています。ここでは、交通量や天気予報などのパラメータと、道路清掃車両の配備とルートに関する情報を組み合わせています。2022 年初頭に行われた最初の実証実験と研究所のテストにより、システムの高い効率が実証されました。また、プロジェクトのテスト段階にも関わらず、具体的な協力要請がありました。

環境にやさしい鉱業

クローズドループの概念は、アウディの Sustainable extraction of high-tech elements（ハイテクエレメントの持続可能な抽出）プロジェクトでも大きな役割を果たしています。アウディ環境財団は、フライベルク工科大学と共同で、ガリウム、インジウム、ゲルマニウムなどのハイテク金属や、現代の e モビリティ産業分野に不可欠な希土類元素を抽出するための新しい手段を研究し、鉱業をより持続可能なものにする方法に取り組んでいます。この研究プロジェクトは、従来の鉱物採掘方法とは異なり、マイクロインベシブと呼ばれるアプローチを採用しています。インシチュリーチングとして知られるこのプロセスでは、鉱床から鉱石を直接採掘するのではなく、鉱床そのものに溶媒を流し込み、そこに存在する微生物により有用金属成分を溶液中に溶出させます。そして得られた（金属が豊富に含まれる）溶液から金属を抽出します。専門家はこのステップで、膜技術を使用して、金属成分を豊富に含んだ溶液を直接処理する方法と組み合わせます。この方法により、ハイテク原料の持続可能な抽出が可能になります。

国際的に行われる環境保護

アウディ環境財団の重要な将来の目標の 1 つは、そのプロジェクトと社外コラボレーションを国際化することです。財団はこの目的のため、例えばワン ヤング ワールド サミットに参加するために、海外で助成金を提供するだけでなく、国際的な環境行動をこれまで以上にサポートしています。

財団は Audi do Brasil とともに、ブラジルの NGO Litro de Luz Brasil をサポートしています。その目標は、電気がない地域の人々が、ソーラーライトを利用できるようにすることです。アマゾン地域のプロジェクトでは、3 つの村に太陽光発電による街灯と懐中電灯が設置され、そこに住む人々の生活の質向上を支援しました。

海洋プラスチック汚染は、世界的な問題です。アウディ環境財団は、CLEAR RIVERS とともに、このソリューションに貢献したいと考えています。ブリュッセル-シャルルロワ運河、ブダペスト、ロットテルダムなどの河川や港にあるゴミトラップは、プラスチック廃棄物が海に流出するのを防ぐように設計されています。ベトナムのメコン川は、世界で最も汚染された川の 1 つです。協力関係のもう 1 つのマイルストーンとして、アウディ環境財団と CLEAR RIVERS は、メコン川に沿ってプラスチック廃棄物を収集してリサイクルする新しいプロジェクトを間もなく開始します。

使用済みバッテリーの二次利用

アウディ環境財団が資金提供し、ドイツとインドを拠点とするスタートアップ企業 Nunam は、使用済みバッテリーを、移動式エネルギー貯蔵ユニットとして再利用しています。Nunam は廃棄されたノートパソコン用のバッテリーを、インドのカルナタカ州のスクラップディーラーから購入し、そのバッテリーセルを、固定型エネルギー貯蔵システムとして使用しています。これらの“パワーバンク”は、スマートフォンやライトなどの低消費デバイスに電力を供給するために使用することができます。また Nunam は Audi e-tron の開発テスト車両から取り外された 2 基の使用済みバッテリーを使用して、ソーラーナノグリッドを組み立てました。このシステムは、インドのウタルプラデーシュ州の人々に、夜間作業に必要な電力を供給します。このように、バッテリーは、クローズドループの概念に従って、リサイクルされる前に“セカンドライフ”が与えられます。その目標は、特にインドの農村地域にグリーン電力を供給し、セカンドライフバッテリーモジュールに基づくモビリティコンセプトの実現に向けてプロジェクトを拡大することです。パイロットプロジェクトの一環として、最初の e-rickshaws（イーリキシャー）が 2023 年初頭にバンガロールの街を走る予定です。この rickshaw は、Audi e-tron の使用済みバッテリーから電力が供給されます。



アウディ環境財団

アウディ環境財団は、住みやすい未来を構築するための、新しいテクノロジーと科学的方法の研究を積極的に支援しています。その使命は環境を保護して、持続可能な活動を創出して促進することです。この財団は特に、環境にやさしい技術、環境教育プログラムに加え、自然界の中で人間、動物、植物が生きるための基盤を保護するための取り組みの進歩と開発に重点を置いています。アウディ環境財団は、社会的な責任を果たし、環境保護を支援するアウディの活動の一環として、2009年に AUDI AG の完全子会社として設立されました。